

平成 28 年度 第1回西区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 28 年 6 月 24 日 (金) 午後 1 時 15 分から午後 2 時 45 分まで
会 場	西区役所健康センター棟 3 階 大会議室
出席者	西区自治協議会委員 17 名 教育委員:齋藤教育委員、伊藤教育委員 事務局:教育長、教育総務課長、地域教育推進課長、学校支援課長補佐 坂井輪地区公民館長、西区教育支援センター所長 他 4 名 西区役所:西区長、西区副区長、地域課長、地域課課長補佐 傍聴者:3 名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶(伊藤教育委員、齋藤教育委員) 3 平成 28 年度教育委員会の施策について(教育長) 4 意見交換(司会 西区教育支援センター所長) 主な視点 ① より良い地域づくりのために、地域の皆さんと公民館などの社会教育施設や学校とが協働してできることは ② 地域で子どもを育てるために、地域と学校の関わりから見えてきた現状と今後必要と考える取り組み
自治協委員	地域との連携の事例として、立仏地区では子どもを対象とした防災教育の一環で地域・学校・社協などが連携して毎年「あそぼうさい」を開催している。 7年目の事業で今年は子ども80名、大人40名の参加があった。子どもたちの意識向上や地元の防災力強化に役立っている。 子どもたちにも大変好評だが、スタッフの顔ぶれが変わらず、人材の確保や入替が難しい状態。
自治協委員	活動を始めて10年を迎え、ボランティアの延べ人数は3,000人を超えた。ただ、顔ぶれは変わらない、という部分は不安。 新たな人材開拓や社会教育施設との連携という事例で、パートナーシップ事業で書写の講師として、公民館の書道サークルに学校にきてもらった。 また、生徒の作品を公民館に掲出することで、公民館を利用しているほかの人たちへの話題提供にもなった。 当初は学校の敷居が高いと感じていたサークルの方々にも好評で、ほかのサークルの方々からも参加してもらえるようになった。 事業の「周知」のみでは人は集まらない。その場に入って、手を引いて結びつけることが大事。
自治協委員	健康センターを会場に、親子の居場所を継続して 10 年。今年からは市のこども未来課と連携して事業展開している。 小・中学生だけでなく、乳幼児の時期から地域ぐるみで子育てする、という意識を大事に活動が続けている。また西区のみならず他区の方にも参加してもらって

自治協委員	<p>る。</p> <p>毎年開催している「西っ子ふれあい広場」は、地域と学校が連携して行っている体験活動の場で、子どもたちは将棋や紙芝居、餅つき大会などを体験し、ボランティアや地域の人たちと関わりを持ち、社会性を学ぶ場としている。</p> <p>最近、下校時に新一年生が自分の家がわからなくなる子や、小学5年生でも卵が割れない子がいると聞いて驚いている。そういった子どもたちへの対処はどのようにしているのか。</p>
教育委員会 事務局	<p>新一年生で入学当初に帰る道がわからなくなることは事例としてあり得ること。入学する前に、「通学路」として認識させるような練習が十分にされていないということが要因の一つとしてある。</p> <p>入学時に行う登下校指導の回数を増やすといったことで対処していきたい。</p>
自治協委員	<p>学校支援ボランティアの立場として、毎年、家へ帰れなくなる子は数人出てくる。やはり、通学の練習が不足している。</p> <p>卵の問題もそうだが、子どもが悪いと言うより大人の理解や経験させることが足りないということが問題。家庭でも箒を使用して掃除をすることが少なくなったとか、住宅事情や生活の変化で自動ドアに慣れた生活となり、扉を閉めるということ、全自動の水洗トイレに慣れた状態に水を流すことなど、日常的な小さなことから一つ一つ教えて、現在の子どもたちの実態を感じながら育てていくことが、地域で子どもを育てていくことにつながるのではないかと思っている。</p>
自治協委員	<p>防災教育に関して。防災の意識向上は重要。全般的に防災教育の推進に関して学校や地域によって温度差を感じる。中学校からも協力をお願いしたい。</p> <p>コミュニティ・コーディネーター（以下、C・C）講座について。講座の開催はよいこと。受講者が地域にもっと入ってきて、地域活動をやって頂くとうれしい。</p> <p>パートナーシップ事業やふれあい事業について。全体的にコミ協としての認知度が低く感じるが、周知が不足しているのでは。お互いに連携できる部分は協力を惜しまない。</p>
教育長	<p>部活動指導における体罰について。報道で出されている件数は氷山の一角ではないか。「ある」ことを前提に気をつけて頂きたい。</p> <p>防災教育には今後さらに力を入れていく予定。昨年度より、地域防災教育プログラムの策定を進めている。プログラム策定時や事業実施の際には地域の方々のご協力をお願いしたい。</p> <p>各事業の各団体への周知、啓発も引き続き行っていく。</p>
教育委員会 事務局	<p>防災教育について。現在、中学校区ごとに、小・中学校と連携して、各地域の実態に即した防災プログラムの作成を行っている。</p> <p>学校側からの課題としては、事業実施の際、地域からの参加が少ない、といったことを聞いているので、今後はさらに学校と地域の連携を強めていきたい。</p> <p>部活動の指導について。教育委員会として、各学校へ指導は随時入れている。特に大会時期になると指導に熱のこもる教員もいるので、校長会等の機会の折々に各教員に周知徹底をする。</p>

C・C講座について。講座受講者には企画委員を中心に、地域の課題を見つけ、その課題解決に向けて地域への協力も促していきたい。

防災教育について。パートナーシップ事業のうち、地域貢献活動の内訳として、防災教育実施校が昨年度比11校増加している。

そのほか、地域貢献活動として、地域清掃とか、環境整備とか、あるいは高齢者・障がい者への支援とか、地域と連携しながら活動を行っている学校が年々増えてきている。特に中学生になると、今度は地域に出て行って貢献活動をする、そういった傾向が見られる。

コミ協との連携の度合いについて。6ページの円グラフは全関係機関の連携割合を示しているものであり、むしろ各機関とまんべんなく連携している結果が表れている。

ただ、地域の方から学校に来て頂くためにはどんな事業をしているのか、目的をしっかりと示していく必要がある。広報活動が足りない部分はテレビや市報などを使いながら積極的に広報していきたい。

ふれあいスクール事業については、地域の大人と子どもたちが触れ合う大事な機会である。異年齢交流、それから地域の教育力の活性化、こういうものを含めて大切なものであることを、そして新潟市はこんな素晴らしい取り組みをしているのだということさらさら発信していきたい。

自治協委員

居場所づくり事業について。家庭の事情で、家庭内で勉強できない子どももいるので、子ども達で勉強を教え合うことによって学力も伸びると言われているので居場所づくりについて事業の拡大を願う。

食育ミニフォーラムに関連して、毎日3食の提供が困難な家庭もあるだろうし、そういった課題に対して、給食・食育を通してどのような対応をしているのか知りたい。

教育委員会
事務局
教育長

居場所については、区内各公民館に設置。フリースペースを開放して、人数が収まらない際には、別の会議室等を用意するなどして対応している。

給食を通してどんな指導をしているか、という質問であれば、食に対する感謝の気持ちを育むような視点で指導しているし、栄養教諭が食育の時間に、給食の献立を例に食事バランスの大切さを教えている。

「家庭の事情」が貧困対策を指しているのであれば、教育委員会全体と福祉部局とも連携して検討していかなければならない課題と認識している。

自治協委員

放課後の学習支援とは、高校受験対策としても使用できるものか。それらの実態と今後どうなるのかについてお聞きしたい。

教育委員会
事務局

アフタースクール事業は、基礎学力の部分を再確認するということで、受験対策として活用することもできる。

パートナーシップ事業でも、ボランティアが一人一人の学力・希望に応じて個別に寄り添う形で対応するので、テスト対策や受験対策としても有用。

自治協委員

今後必要と考える取組ということで一つ提案を。小学校6年時の「いのちの授業」の際、生徒と公民館のゆりかご学級や幼児期家庭教育学級の参加者と触れ合う機会を持つことはどうだろう。

教育委員会 事務局	<p>今、赤ちゃんに触れ合わないまま、子どもを産み育てるお母さんやお父さんが増えているという現状もある中で、小学生の頃から、乳幼児に触れ合う機会を持つことで、登下校時に赤ちゃんと出会ったら自然に声かけできるような子どもに育ち、ひいては地域全体で子育てしていく環境になっていくのでは。</p> <p>教育委員会では乳幼児と触れ合う機会を授業として特に設けてないが、北区では区役所と学校が連携した事業として、中学 3 年時に「赤ちゃんふれあい教室」を開催し、乳幼児に触れ合う機会を持った事例があった。</p>
自治協委員	<p>要望として。防災教育のプログラム策定指定校向けの説明会が 5 月に行われ参加したが、「防災教育」に対する学校の意図と、説明会における趣旨に違いがあると感じた。また、担当教員の異動がある中で、5 月からの説明開始では地域と連携するのも時間が足りない。</p>
自治協委員	<p>予算の使い方にしても、この事業費で購入できるものが「防災グッズ」に限られていて、チラシ用の紙やマジックといった消耗品は購入できず、非常に遣いづらい。学校が余裕のない状況は理解するが、現場の実態に即した事業執行を願う。</p> <p>教育委員会全体の予算の中で、地域関連事業の予算額はどの程度か。また昨年度比でどれだけ伸びがあるのか。</p>
教育委員会 事務局	<p>また、学校備品の予算額の前年度比伸び率はどれくらいか。</p> <p>手元に詳細資料がないので、後日回答する。</p>
教育委員	<p>防災教育が必要という認識が各地域に広がっていることを、いろいろな事例を通して聞けたのでよかった。地域・学校と連携して行っていきたいという意向も感じられたので、今後更なる取組を進めてもらいたい。</p>
教育委員	<p>また、下校指導の話で、自分も学校ボランティアで関わった経験があるが、毎年、家に帰れない子どもは出てくる。どこの地域でも共通課題かと思うので、ボランティア、保護者で通学路の相互確認を行うなども一例として、今後も事例の情報共有をしていきたいし、自分からも紹介していきたい。</p>
議 事	<p>本日いろいろなご意見をいただいた。この意見を他の教育委員とも情報共有し、新潟市全体の教育施策に少しでも反映させていきたい。皆さんがお集まりになる機会がない中で、もう少し集まる機会があって、なかなか意見「交換」というところまでは難しいとは思いますが、お互い知恵を出し合って有意義な会にしていければ、と思っている。</p> <p>5 西区自治協議会会長挨拶</p> <p>活発な意見交換ができてよかった。西区では、地域と学校、社会教育施設の連携を着実に進め、大きな成果が出てきている。子どもの参加により地域活動は活性化し、地域活動に参加することで家族以外の大人と触れ合う機会が増え、そういった機会を経験することで地元に誇りと愛着を持つ子どもが増えている。昨今、地方創生と言われているが、地域の頑張りが大きく期待されている。</p> <p>6 閉会</p>